

2021年11月13日

令和3年度第2回 海岸工学委員会委員会議事録

開催日時：令和3年11月10日（水）16:40～19:00

開催場所：ZoomによるWeb会議

出席者：佐々木委員長，森副委員長，北野幹事長，有川，遠藤，渡辺，田島，山中（委員），宮武，原田，渡部，新保（岩前 代理），荒木，五十里，中村，加藤，安田，宮本，李，川崎（小委員長），柴山（相談役），太田，嶋原，西村，越村，入江，久保田，小野，山城，信岡，高川，山本，内山（小委員長），秋山，伊藤，末岡，鈴木，西畑，瀬戸口，福濱，坪野，下園，榎田，奥田，柿沼。
議事録：宮武，北野

審議報告事項：

- ・ 前回議事録の確認：WEB公開済の議事録を確認した。

1. 海岸工学論文集第68巻発刊準備状況について（川崎論文編集小委員会委員長）

(1) 最終審査報告

- ・ 登録論文数：258編（過去5年：306, 321, 312, 362, 373編，年々減少傾向）
第1段審査通過論文数：230編（企画セッションはなし．不採択28編）
第2段審査通過論文数：190編（論文登録数192編，発表のみ38編，不採択2編，辞退0編）
第2段審査以降通過論文数：187編（不採択2編，辞退1編）
※海岸工学講演会での発表数：187(本論文あり)+43(要旨のみ：通常号含む)
- ・ 第2段審査以降の辞退論文内訳
合計1編（第2段審査・再審査時：1編(修正意見に対応できない．)）
- ・ 取り下げ手続き
第1査読時に登録した著者全員の自筆署名が入った文書の提出を求めた。
→提出済み

(2) J-Stage 作業について

- ・ 組版を廃止し，Author+から最終原稿PDFを組版業者（大應印刷）に提出。
- ・ 組版業者（大應印刷）に論文フォーマットのチェックを依頼
著者が対応可能な修正が必要な原稿
（題目変更，著者順変更，著者名の誤りなど）
Extended abstract：13編
本原稿：8編
- ・ J-Stage公開は色々トラブルがあったが，例年通り11月初旬に公開。

(3) 論文集編集の現状・検討課題

- ・ 組廃止に伴う査読日程の見直し，問題点の確認
 - ・ 最終原稿PDFアップロード Author+ の運用6年目
 - ・ 最終PDFでのフォーマットミスが散見される。
 - ・ 英語名順序ミス(1編)，英文タイトルスペルミス(2編)，受理日ミス(1編)について修正で対応。
→副査でチェックをより厳しく．主査は第2査読までに指摘．以下，具体的な項目。
英文タイトルが大文字小文字混在，英文著者の名字が小文字。
所属欄のスペースが大きい．章の上部に2行空きとなっていない。
引用文献のフォーマットが統一されていない．キーワードのスペルミス。

図中の文字がずれている。式番号の位置がずれている。など。

- ・ 英文論文(全文査読)の募集を継続(第2 査読審査投稿数 8(14), 採択数 8(14)) ()は昨年.
 - ・ 投稿申し込みシステムの英語化
 - ・ その他
 - ・ 題目・著者変更ルールについて
 - ・ 現状はいかなる場合でも申請, 委員会での承認が優先
 - ・ 主査・副査からの指示はないが, 著者が変更を希望→要申請・承認
 - ・ 主査が指示した場合には, 修正が採択要件となるのではないか(申請は必要か)
 - ・ 副査が指示した場合, 修正は許されるか(2 と同様?)
 - ・ フォーマットがないため, 記載内容が統一されていない→フォーマットが必要か
 - ・ 修正がなされた場合は主査に連絡を行う。
 - 題目変更に関しては主査判断でしていただく, 但し CEC に連絡を入れる。
 - 主査から修正意見がない場合の題目変更は, これまでどおりの手順で CEC に申請を行う。
 - 著者変更についてもこれまで通りの手順で CEC に申請を行う。
- (引き続き, 論文編集小委員会で継続審議する。)

(4) 論文集査読 現状・検討課題

- ・ 主査判定のガイドライン, 主査報告の書き方に関する確認
 - ・ 本論文の受付日, Corresponding Author の記載(通常号に合わせる)
 - ・ 査読システムと論文記載の指名記述は, システムに記載したものを正とする。
 - ・ 査読システムに記載する指名記述, 英語論文にばらつきがあり, 統一したい。
- 主査判定のガイドライン及び主査報告の書き方
- ・ 最終判定の明確化・カテゴリー
 - A) 受理: そのまま掲載可. 校正上の修正以外は求めない
 - 修正意見が多々記載されているケースがみられる. 本来であれば B 判定(または C 判定)となるべき。
 - B) 受理: 微修正 校正上のやや大きな修正および D 判定に関わらない程度の修正. 主査が再度チェックする必要あり
 - C) 再査読: D 判定の可能性のあるものとして判定
 - D) 却下
 - ・ C 判定とする場合のガイドライン
 - ケース 1): 再査読で D の可能性がある判定の場合
 - cec@jsce.or.jp まで主査報告書を添付して連絡.
 - cec (委員長・副委員長・幹事長・論文編集小委員長で検討)
 - C 判定の妥当性の確認と承認
 - 判定理由の文面を丁寧に作成
 - ケース 2): 念の為, 再査読で確認したい程度の場合
 - 基本的に連絡の必要なし
 - C 判定の妥当性の確認と承認
 - 判定理由の文面を丁寧に作成
- 判定書の書き方
- 主査報告の「判定理由」で最低限クリアすべき項目・対応を具体的に明記。
 - クリアすべき項目・対応が対応できない場合は, D 判定の可能性のあることも最後に明記。

- C/D 判定の主査報告の書き方

例：判定理由

本原稿は、工学的に重要な知見を含んでおり、海岸工学論文集に適した目的・解析が行われていますが、いくつか重要な指摘・修正事項がありますので修正してください。修正原稿にもとづき掲載可・棄却の判定を行います。修正あたり、以下の点に留意して慎重かつ丁寧に修正を行ってください。

- 査読者 A の指摘事項 1),3),5)には必ず対応してください。
- 査読者 B の指摘事項についてはすべての事項に必ず対応してください。
- 査読者 C の指摘事項 2), 5)には必ず対応してください。3)は査読者の誤解に基づく指摘ですので無視してください。
- その他の事項に関しては、著者の判断にお任せします。

- D 判定とする場合のガイドライン

D 判定とする場合

- cec@jsce.or.jp まで主査報告書を添付して連絡。D 判定の妥当性の確認と承認。
- 主査報告の「判定理由」で最低限クリアすべき項目・対応を具体的に明記（できるだけ次に繋がるような文章で）

査読者間で判定が一致している場合

- 投稿者が D 判定であることを理解しやすいように、論文のクオリティとして不足している点等について判定理由を明確に書く。
- 全ての査読者の意見の詳細も掲載。原稿作成・投稿時に気をつけてほしい点を明確することが、次回以降の原稿のクオリティ向上につながる。

判定が割れている場合

- 判定が B,C,D と分かれるような場合、できるだけひと手間かけてでも C 判定とし、著者に対応の機会を与える。
- 上記の条件で C 判定とする場合、主査は「判定理由」に個々の査読意見をもとに最終的な対応について主査コメントを明記する。

- D 判定とする場合のガイドライン 2

- 研究のオリジナリティ等、判断の難しい論文は、他の査読結果と俯瞰してチェックするため、cec@jsce.or.jp まで報告する。cec（委員長・副委員長・幹事長・論文編集小委員長）ではこれらの主査判断について他の査読結果と俯瞰してチェックする。
- オリジナリティ等のグレイゾーンの論文については個別に判断する。

- 土木学会論文集編集調整会議・関連項目

- 土木学会論文集特集号の掲載＋発表の場合の著者負担金は 25,000 円

- 要旨論文のみの発表は 10,000 円

(ただし連名に会員がない場合は土木学会会費相当額(12000 円)を上乗せした著者負担金を負担いただく(2021 年度より))

- 論文集 DVD は 3,000 円程度

- 土木学会論文集通常号は 2022 年 1 月に新システムでスタート

- A~H の各分野を統合し、発刊される。各部門に対しては Vol.(No.)で対応。

- 土論と同じシステムにするのであれば、2022 年 7 月特集号からシステム使用検討開始 2023 年 1 月にスタート。独自にシステムを運用する場合は自由に行ってもよい。

- 新しい土木学会論文集の編集体制：論文編集小委員長が Editor になる。

- 和文・英文フォーマットが決定、特集号も合わせるか検討が必要。

- ヘッダー・フッターも土論と同様になる見込み。

- 特集号に投稿・掲載された英文論文は Journal of JSCE にも掲載される見込み。
(この辺の詳細はこれから検討される.)
- アトラス社による査読システム, 2021 年 11 月にシステム機能の説明会を実施,
特集号の査読システム; 今後の運用も含め, 検討が必要.

2. 海岸工学論文賞および論文奨励賞について (北野幹事長)

- ・ 以下, メール審議で承認済みを報告.

(1)査読対象論文候補論文の抽出

- ・ 論文賞: 査読評定の(6×5+20×3=90)合計 71 点以上 10 編(適切)を全文審査.
(70 点以上の論文 12 編は多いため, ボーダーを昨年度同様 71 点に)
- ・ 奨励賞: 71 点以上該当 2 編(論文賞と重複, 不足のため)
70 点 0 編, 69 点 2 編, 全 4 編を全文審査
論文賞・奨励賞候補合わせて 12 編を全文審査 (昨年は 14 編, その前は 13,12,…))

(2)全文審査

- ・ 候補論文を著者以外から 5 人の審査員を選出.
- ・ 新規性・独創性・有効性・完結性・信頼度の 4 項目で合計 20 点
- ・ 査読店を伏せて審査を実施. 論文賞(奨励賞)に推薦するものを 3 編に○印

(3)全文審査結果を含めた賞候補の選考プロセス

- ・ 審査員 5 名の賞推薦(○)の数で上位 3 編を決定
- ・ 上記で決定できない場合は総合得点で優劣を決定
- ・ それでも決定できない場合は審査員 5 名の採点結果で優劣を決定
- ・ それでもさらに決定できない場合は 5 人の審査員の投票により優劣を決定

以上の厳正な審査により, 以下の論文が受賞することとなった.

- ・ 海岸工学論文賞

題目: マウンド透過波による吸い出しの機序・影響範囲及びフィルター材を用いた抑止法の研究

著者: 工代健太, 佐々真志, 梁順普, 高田康平

題目: 一様流れ中における集中包絡波

著者: 渡部靖憲, 小熊多佳史

題目: 2019 年台風 15 号による横浜港での波浪外力

著者: 田村 仁, 川口 浩二, 加島 寛章

- ・ 海岸工学論文奨励賞

題目: Effects of Large-Scale Effluent of the Chikugo River due to 2020 Kyushu Floods
on the Development of Hypoxia in the Ariake Sea

筆頭著者: Hao Lin (共著: 佐藤友哉, 矢野真一郎, Bing Xiong, Chi Baixin)

題目: バイスペクトルとニューラルネットワークを用いた水圧波から表面波への換算法の開発

筆頭著者: 吉野日和吏 (共著: 橋本典明, 井手喜彦, 川口浩二, 三井正雄)

題目: Wavelet-based model of grain-size distribution detection applied to UAV images
along the Shimizu Coast

筆頭著者: Lorenzo Scarpelloni (共著: 田島芳満, 佐藤慎司)

- ・ 次年度以降, 海岸工学論文賞・奨励賞の選考は, メール審議により講演会の事前に決定することを本委員会で承認.

3. 第68回海岸工学講演会（オンライン開催）について（北野幹事長）

- ・ 実行メンバー
広報・出版小委員会（講演会）・有志・中部の実行委員会（企画セッション）・幹事長（調整役）
- ・ 日程
11月10日(水)～12日(金) Zoom 5会場×3日間：各セッション発表4～5編
セッション間の休み時間は10分。1編20分(発表12分質疑8分)
- ・ 企画セッション
セッション1 日時 2021年11月10日(水) 15:00～16:30
テーマ 地盤と波動の相互作用について考える
(水理模型実験における地盤材料の取扱方法に関する研究小委員会)
『水理模型実験の理論と応用—波動と地盤の相互作用—』2021年9月発刊（販売中）
セッション2 日時 2021年11月11日(木) 15:00～16:30
テーマ テーマ海岸の将来ビジョンとその実現に向けた取り組み
- ・ その他
 - 講演会、企画セッション参加は事前申込制（下記の数字は、確定値）
 - 一般セッション 945名、企画セッション1 440名、企画セッション2 460名
 - 講演者は、全員講演(昨年度同様、プレレコーディングに対応)。
 - オンライン講演会は、昨年度と同様、zoom と youtube で行う。
 - youtube でのアーカイブは11月末まで事前登録された参加者に限り閲覧可能。

4. 第69回海岸工学講演会の準備状況について（嶋原実行委員）

会場：横須賀市 ヴェルクよこすか(横須賀市立勤労福祉会館)

日程：2022年11月8日(火)～11月11日(金)

1日目オンライン(11/8)、2～4日目ハイブリッド(11/9～11)

実行委員会：

委員長：栗山(海上・港湾・航空技術研究所)、関東地域の

委員：鈴木(横国大)、八木・嶋原(防衛大)、田島・下園(東大)

福谷(関東学院大)、有川(中央大)、高川(港空研)、今井(JAMSTEC)

後援：横須賀市(予定)、国土交通省関東地方整備局(予定)

セッションの配置、委員会の開催及び会場運用等は現在検討中。

シンポジウム・見学会・懇親会：現在検討中。見学会は港湾航空技術研究所施設見学を予定

5. 第56回水工学に関する夏期研修会（山中委員）

主催：公益社団法人 土木学会（担当：水工学委員会、海岸工学委員会）

後援：土木学会四国支部

日程：2021年8月30日(月)～31日(火)

場所：オンライン開催

参加者：204名

実行委員：岡田(高知高専)、森脇(愛媛大)、田村(徳島大)、山中(徳島大)、張(熊本大)

荒木(大阪大)、橋本(東北大)

- ・ 収支：大きな黒字・赤字なし
- ・ 民会会社からの参加が主である。関東、近畿、四国からの参加が多かった。
- ・ Bコースは知人から紹介で参加多数。
- ・ 参加費、コース横断の受講、音声による質問、開催日、発表資料に関する意見が寄せられた。

6. 第 57 回水工学に関する夏期研修会の開催案（下園委員）

日 程：2022 年 9 月 5 日(月)～6 日(火)

場 所：東京大学本郷キャンパス(ハイブリッド開催も視野に検討)

定員：AB コースともに 150 名(対面の場合)

構成：初日に AB コース共通講演を 2 コマ設定，その後個別に 6 テーマずつ講演.

AB コース共通講演：今後の海岸工学の課題について(仮) 加藤史訓(国総研)

B コース講演：テーマ「波・流れと地盤の相互作用」(仮)

地盤材料研究会のメンバーで構成

7. Coastal engineering Journal について（内山 CEJ 小委員長）

- ・ 小委員長：内山，副小委員長：有働

委員：下園，Suppasri，Khayyer，田島，高木，田村；原田，日比野，今井，加藤，木原，三井，陸田，織田，鈴木，高川，三戸部，伴野，志村，Adriano(3 名拡充)

- ・ Impact Factor は 2019 年：2.032 →2020 年：3.216 ↑

- ・ Editor Board CEJ 小委員会の拡充

新 Editors (10 人→12 人)

Jeremy Bricker (Univ. Michigan, U.S.)

Yukinobu Oda (Taisei Co., Japan) いずれも 7 月までは Associate Editor

新 Associate Editors (15 人→21 人)

Bruno Adriano (RIKEN Center for Advanced Intelligence Project, Japan)

*Masayuki Banno (Port and Airport Res. Inst., Japan)

Benedict Rogers (Univ. Manchester, U.K.)

*Tomoya Shimura (Kyoto Univ, Japan)

Nguyen Xuan Tinh (Tohoku Univ, Japan)

Yuta Mitobe (Tohoku Gakuin Univ., Japan) *は新 CEJ 小委員，は 7 月まで Assistant Editor

- ・ 出版状況

– CEJ 2021 Sept., Vol. 63, No. 3 Blue Carbon SI : 16 編出版(うち 1 編は Survey Reports)

- ・ 2022 : CEJ Special Issue on Coastal Hazards and Risks due to Tropical Cyclones

(6 編査読中, 5 編 Rejected, 7 編 Accepted)

- ・ 2023 : CEJ Special Issue on Coastal Disasters in Asia: Forecasting, Uncovering, Recovering, and Mitigation.(論文募集中)

- ・ Coastal Engineering Journal Award 2020

Rafael Aránguiz, Miguel Esteban, Hiroshi Takagi, et al. (2020): “The 2018 Sulawesi tsunami in Palu city as a result of several landslides and coseismic tsunamis”, Coastal Engineering Journal, 62:4, 445-459.

- ・ CEJ Citation Award 2020

Xing Zheng, Songdong Shao, Abbas Khayyer, et al. (2017): “Corrected First-Order Derivative ISPH in Water Wave Simulations”, Coastal Engineering Journal, 59:1, 1750010-1-1750010-29.

- ・ JAMSTEC 中西賞

Naoto Kihara & Hideki Kaida (2020): “Applicability of tracking simulations for probabilistic assessment of floating debris collision in tsunami inundation flow”, Coastal Engineering Journal, 62:1, 69-84.

- ・ T&F からの印税の用途について

– 毎年 100 万円程度入金.

– CEJ 招待論文 優れた業績と経験を有する方の招待論文を支援

– APC(論文投稿料)を負担，オープンアクセスとする.

- 必要な方(日本人)に英文校閲費を支出(技術的に困難な場合は、相当の謝金を支出)
 - 土木学会会員以外の方には原稿料(形式は謝金)の支出を可能とする.
 - Royalty に支払い猶予は出来ない.
 - ・ 賞状について
ジェンダーに配慮し、chairman から chair に表記を変更した.
- 8. 常設委員会の報告（広報・出版、沿岸域連携）**
- ・ 広報・出版（荒木小委員長）
 - メンバー（2020年度体制）
川崎(顧問), 荒木(小委員長), 安田(副小委員長), 北野, 田島, 山城, Bricker, 中村, 渡邊, 井手, 比嘉(2名拡充)
 - 広報関連（WEB情報の充実）
 - 海岸工学関連の本の紹介(1~2か月おきにアップデート)
 - 海岸工学講演会関連の情報, 海岸工学論文集データベース, 若手の会, 見学会の充実化.
 - 小員会, 研究会の情報更新.
 - 災害DBの順次補充
 - 海岸工学の魅力, 波浪や津波等の一般向け: 検討中
 - 出版関連（プログラム・DVDの状況）
 - 業界案内: 2021年は23件で横ばい. 印刷ぎりぎりまで対応.
 - 裏面に論文賞, 論文奨励賞, 内面に海岸工学委員会からのお知らせを印刷
 - 企業展示: 2021年はなし.
 - 講演会の案内: 2020年はなし.
 - プログラムの広告枠: 4件
 - オンライン開催もしくはハイブリッド開催が続くことが想定される中, 現地実行委員とオンライン開催をサポート
 - 広報・出版・web開催小委員会に改称する.
 -
 - ・ 沿岸域研究連携推進（遠藤小委員長）
 - 第1回沿岸域研究連携推進小員会
日時 2021年11月10日(水) 12:35~
活動報告 副小委員長に片岡先生(愛媛大)が就任
今後体制の更新を予定.
 - 海岸工学委員会内規の改変
10.に「他学会との連携」を追加
 - メンバー構成の更新
現在の33名から年齢で人数を制限, 若手で運営を行い, 他学会との連携を強化するためアドバイザー, 顧問を設置して参画.
 - 今後の活動方針
常設委員会として, 他学会とのジョイントセッション, 沿岸連携以外との連携を検討し, 活動を増やす必要がある.
- 9. 海岸工学委員会内規細則の改正等について（北野幹事長）**
- ・ 幹事長から10/26のメールで送付した海岸工学委員会内規細則の改正案と海岸工学委員会覚書について説明があった.
 - ・ 幹事会にて, 新しい研究小委員会を立ち上げるにあたり, 海岸工学委員会の研究小委員会およ

び研究会に関して、明文化されていないかった要件や分類等を整理して必要となる文書も含め、委員会で承認を得ることとなった。

- 小委員会を常設小委員会と研究小委員(2年間の任期付き)に分類して内規に記載
- 広報委員会の名称の修正。
- 沿岸域研究連携推進小委員会を経緯と現状に合わせて常設の小委員会とする。

・上記の海岸工学委員会内規細則の改正案と海岸工学委員会覚書は、本委員会で承認された。

・ 研究小委員会の提案について

- 沿岸まちづくりにおける経済的手法検討小委員会(安田委員)
設立経緯の説明があり、本委員会で承認された。
- 現在活動中の研究会から提案があれば、改正された内規細則にしたがって審議を行い、研究小委員会の設立を認める。

10. 水理公式集例題集小委員会：水理公式集例題集の改訂（山城委員）

水理公式例題集をこれまで別途であったプログラム集と統合した形で新しく更新する予定が報告された。新しい例題集では学生から若手の技術者をターゲットにしており、できるだけ実務に沿った内容を目指すことが報告された。

11. その他

・ 令和3年度の委員会予算について（北野幹事長）

- 行事予算の黒字が次年度の委員会予算として反映分　：約250万円
- 2020年度のみの特例対応として
2020年の拡充支援金の希望額を繰り越し　：約250万円
- 調査研究費配分(委員会の活動評価A)　：約93万円
使途について常設委員会(昨年度までの)及び研究小委員会に有効な使い道を打診。
 - ・ 水理模型実験における地盤材料の取扱方法に関する研究小委員会から、出版物の英訳費用
 - ・ 広報・出版委員会から、HPサーバのセキュリティーアップ費用
 - ・ 12月開催予定の Klaus Hasselmann 博士ノーベル物理学賞受賞記念イベントの準備費用(数万円程度のわずかであるが)等の提案がなされた。
- CEJ印税(新年度に振り込まれる金額が前年度振り込まれ、それを振替)
招待論文(仮名)の支援等を検討している。　：約120万円

その他の使途について議論され、引き続きメール審議で検討を続けることとなった。

・ 戦略WGについて（原田幹事）

- ・ 高校生発表に関する様々な意見の報告があった。
- ・ アンケート自由記述にあったご意見について
(発表件数を増やすには?に対する自由記述)についての報告があった。
- ・ 来年度の横須賀開催でサイドイベント
 - ・ 20-30代からの意見やアクションを進める枠組み
 - ・ 地方支部発表会などでお声がけする
 - ・ トップダウンではなくボトムアップ的な何らかの仕組みを作る
 - ・ 若手の会を活用
 - ・ 大学生サイドイベントと混ぜる(20~30代から高校生まで混ぜるなど)
 - ・ 若手にセッションを任せる 若手企画セッション 座長は若手が担当
 - ・ やる気のある20~30代が貢献できる場を提供する勉強会

- ・多様な企画（シニアの先生の講演+若手 10 名など）積極的に関わりたい 20～30 代に個別にお声がけしておく．できるところから考えて始めていく．こちらも継続検討とした．
- ・国際会議や国内シンポ等の事例の紹介があった．
- ・自由記述欄の意見
 - ・投稿スケジュールの変更が可能か？ →難問．数年スパンで継続検討(別 WG が必要?)
 - ・土日開催など →変更は難しい
 - ・ハイブリッド開催
 - 状況を見てメリット・デメリットを勉強しつつ議論継続
 - 現地集まるメリット・モチベーションを検討することが大切
- ・世界銀行「西アフリカ沿岸地域管理プログラム」は委員の推薦依頼があり，田島委員を推薦
- ・第 3 回 JSCE-CCES ジョイントシンポジウム（10 月 20-21 日開催）：
次回の開催となる 2023 年は APAC との重複となることを事務局の国際センターには意見している．
- ・津波に対する海岸保全施設整備計画のための技術ガイドラインセミナー（10 月 29 日開催）：
地方自治体や建設コンサルタントの実務者を主体に 300 名を超える参加者あり
- ・「第 51 回日本産業技術大賞」の推薦はメールにて 12/3(金)までに申し出る．

以上